



# Casting Sport Rule Book

## JCSF編・日本語版

Edition 2016.01.07 追記

Japan Casting Sport Federation

Approved by JCSF © JCSF, All rights reserved.



- ロッド
  - ・一般的な3m以下のガイド付きのフライロッド。
- リール
  - ・一般的にフライリールと見なされるもの。自作も可。
  - リールはロッドに固定されていなければならない、ラインはリールに結ばれていること。
  - バックライン、フライライン、の全てを巻き取れること。
- ライン
  - ・【ICSFルール】ICSF公認のフライライン。長さは最低13.5m。
  - 金属または同等の素材は使用不可。バックラインには制限はない。
  - フライラインの先端を補修する場合は、同素材・同じ色のものを用いること。
  - 【JCSFルール】日本の国内大会ではJCSFルールを適用し、他のフライラインも使用可とする。
  - 日本国内大会におけるフライライン規定
    - ・キャストिंगスポーツを気軽に楽しむための入り口として、ICSFルールに加え、下記のラインも日本国内の大会では使用可とします。
    - 【各種フロートライン、指定外の色を除く各種フライライン。直径はT38よりも細いものは使用不可】
    - \*指定外の色：黒、グレー、濃緑、濃青、濃茶、透明【例：旧T40(3M), 3MシンキングラインType4】
  - ＜細則より＞
    - ・フライラインに長さを示すマークをつけることはできない
    - ・1種においてラインの先端を修復する場合は、ロッドの長さを上限とする。
- リーダー
  - ・最低1.8m以上の長さ。リーダーはフライラインとは異なる素材でなければならない。
  - 先端部分は、30cm以上の直径0.45mm-0.50mm以下のティップを付けなければならない。色は、蛍光イエロー、蛍光オレンジ、蛍光グリーンなどの明るい色を用いること。透明や薄く透けている色は使用不可。黒色は使用可。
- フライ
  - ・ICSFルールに定められた競技用フライを用いる。フックの先端が折られている10番のフックを用いたフライとする。ハックルの直径は16-20mm、ハックルとテールとでタイイングされたもの。色は白・黄色・赤。
  - 試技開始前には選手はフライを審判に見せ、審判が使用について可否を判断する。フライの交換を要する場合、そのための時間は追加されない。フライが切れた場合は新しいものを使う（数に制限はない）。自作フライ使用可。
- 投擲台
  - ・投擲台の大きさは、タテ1.5m以下、ヨコ1.2m以下、高さ50cm。
- ターゲット
  - ・プラスチックか金属で作られた、直径60cmエッジの高さは3cmのターゲットを5つ使用する。
  - 色は、黒、深緑、群青、茶等の濃い色。水を満たして使用する。
- コート
  - ・No.1ターゲットは正面左、No.5ターゲットは正面右に設置する。投擲台の前面中央上部の端からターゲットの中心までの距離が左のNo.1を8m、No.5を13mの位置に置く。No.2,3,4は、No.1とNo.5を結んだ直線上にターゲットの中心から1.8mの等間隔で配置する。その際、No.3のターゲットが、投擲台の正面に来るようにセットする。
- 競技時間
  - ・全ての投擲を5分30秒以内に終了すること。
- 得点
  - ・ヒットごとに5点ずつ加算。満点は100点。
  - エッジ部分もターゲットとみなし、5点加算される。
- 補足
  - ・選手は投擲を行っている間、少なくとも片足は投擲台の前面の縁にかかっている必要がある。

## ドライフライ・ラウンド

- 選手は投擲台に上がりフライを持ち、ロッドと同じ長さのフライラインを出して準備を整える。
- （リーダー部分は含まない。また、持ち手からリールまでの間にラインのたるみを出してはならない）
- 選手は審判のスタートの指示により、投擲を開始する（スタートの指示と同時に、時間の計測も行われる）。
- ドライフライ・ラウンドでのキャストの順は、3-1-4-2-5-3-1-4-2-5の順で行う。
- 投擲と投擲の間には、必ず1回以上のフォルスキャストをいなければならない。
- 合計10投は、決められた順に投擲しなければならない。
- フライラインの長さの調節は、ロッドが動いているフォルスキャスト時にのみ行うことができる。
- リールからラインを引き出す場合もロッドが動いている時にのみ行うことができる。
- 規則に反するラインの長さの調整を行った場合は、次の投擲のスコアがゼロとなる。

## ウェットフライ・ラウンド

- ドライフライラウンド終了後、選手はNo.1のターゲットまでの長さにラインを短くすることができる。
- その後、選手はウェットフライキャストを1-2-3-4-5-1-2-3-4-5の順で行う。この場合、No.5からNo.1に戻る際も、ラインを手繰って長さを短く調節することができるが、フォルスキャストを行ってはならない。

## キャストिंगの注意

- フォルスキャスト時に意図的にリーダーやフライラインが地面に触れるような規則に反する行為をしている場合は、審判から警告を受ける。もし選手がその行為を改善しなかった場合は、スコアはゼロとなる。
- ウェットフライ・ラウンドで地面や草などの悪影響により得点を逸した場合は、主審の判断により選手は当該の投擲をやりなおすことができる。

# 第1種 フライ正確度種目

<ドライフライラウンド>

3-1-4-2-5-3-1-4-2-5

\*フォルスキャストあり

<ウェットフライラウンド>

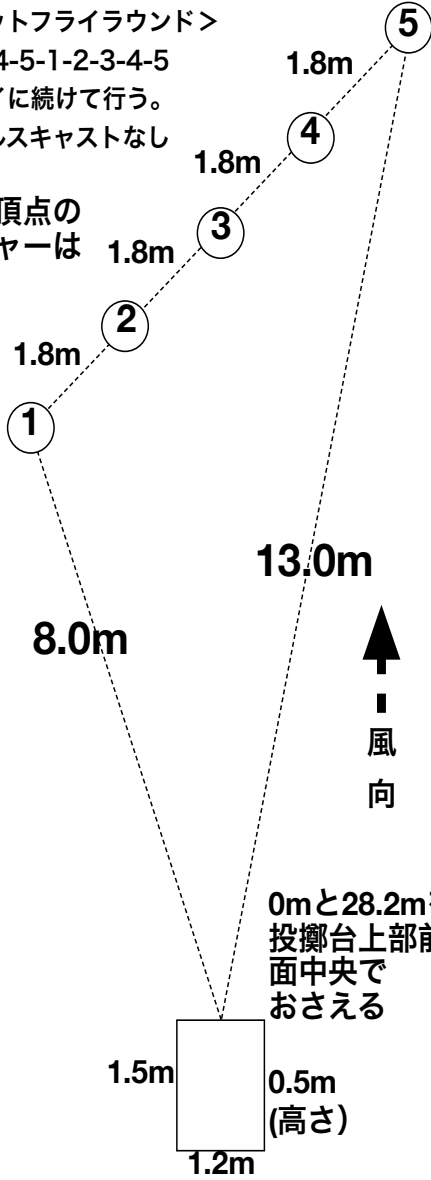
1-2-3-4-5-1-2-3-4-5

\*ドライに続けて行う。

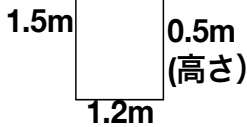
フォルスキャストなし

角の頂点の  
メジャーは  
8.0m

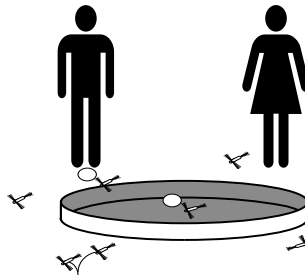
角の頂点の  
メジャーは  
15.2m



0mと28.2mを  
投擲台上部前  
面中央で  
おさえる

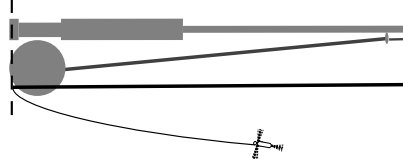


▲  
風  
向

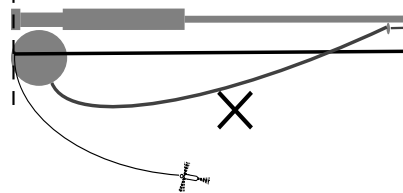


審判の立ち位置は、コートの外側で主審と副審とでターゲットを囲むようにし、ターゲット内に自らの影を落とさないよう心がける。ターゲット内をヒットとし、またエッジに当たったものもヒットとして判定する。

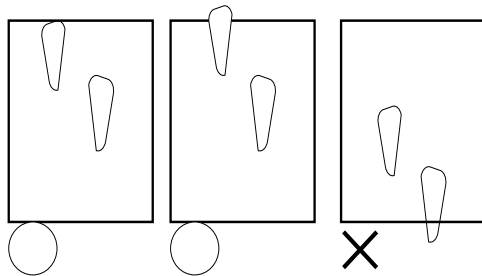
投擲台に乗ったらフライを主審に見せて確認をとる。  
競技開始時にはフライを手に持った状態でスタートする。



ロッドと同じ長さのラインをリールか引き出しておく。  
リールから出ているラインをたるませておいてはならない。

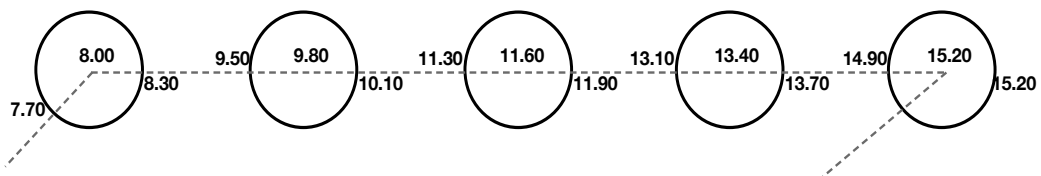


投擲中は、片足を必ず投擲台の前面に接する  
ようにしておかねばならない。つまり投擲台を  
移動することで距離を調節してはならない。



<コート設営の際のメジャーの目安>

コート設営時には、各ターゲットの中心と両サイドに、それぞれのメジャーがくるように設置すること。傾きなどはターゲットの下に小石や木片を入れて調節する。

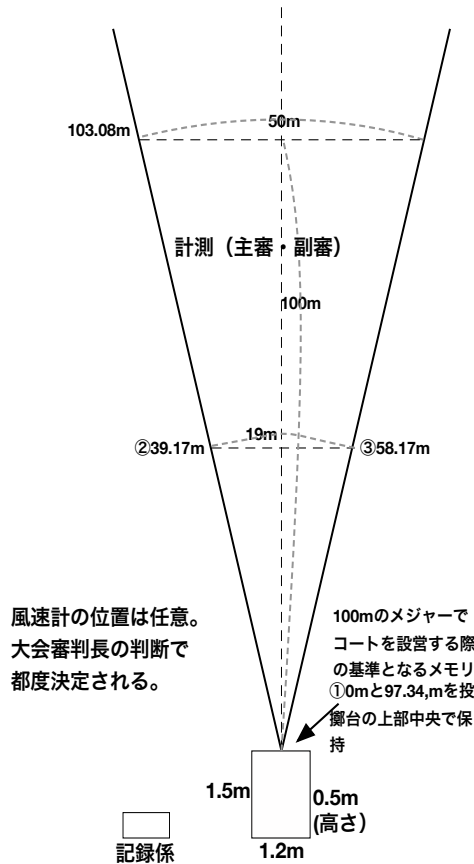


## 第2種 フライ片手投げ距離種目

JAPAN CASTING SPORT FEDERATION

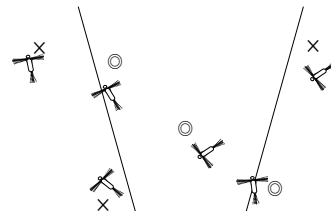


- ロッド ・ 全長3m以下
- リール ・ バッキング、ライン全体、リーダーを全て巻き取ることができるリール。自作可。  
・ リールはロッドに固定されていなければならない。ランニング（バッキング）ラインはリールに結ばれていること。
- ライン ・ ICSF公認のフライライン（T38 Airflo社製）。金属または同等の素材は使用不可。  
男性少年 13.5m以上、38g以下（+0.2gまで許容）  
女性女子 13.5m以上、34g以下（+0.2gまで許容）  
・ JCSFルール：2種においてラインの先端及びラインの末端を修復・加工する場合は、ロッドの長さまで。修復に用いることができるのは、メインのラインと同じ素材・色のものに限る。  
\*国際ルールでは『2種のラインはカットのみ可、修理・加工は不可』となりましたが、JCSFでは国内での競技普及を促すため、旧来のルールを残します。
- リーダー ・ 1.8m以上3.0m以下
- フライ ・ 1種と同じ
- 投擲台 ・ 1種と同じ
- コート ・ 投擲台の正面50m地点で25mの幅のV字コートを使用（詳細は図を参照）  
\*各コートとも、50m地点地点が分かるように目印を設置すること
- 競技時間 ・ 5分
- スコア ・ 2種の順位は、最長のみで競う。複合種目は最長と次長の合計を使用する。1m=1点で計算する。
- 補足 ・ 前の選手が投擲している間に、次の選手はコート外にラインを引き出して置く。

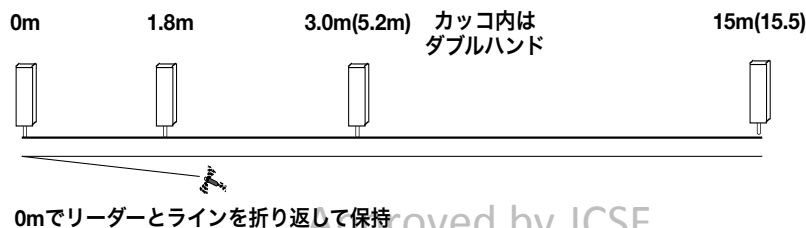
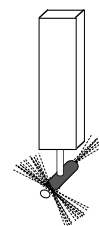


### <記録の決定>

コート内に静止した位置が、記録となる。  
バウンドしてコート外に出たものはファール。  
ライン上は、コート内として計測する。



落下したフライをマークする際は、フライの中心にペグを指す。





- ロッド** ・長さが137cm以上250cm以下の片手投げのロッドを使用する。  
最低3つのガイドとトップガイドの合計4つのガイドがついていること。  
リール側のガイドは内径が50mm以下、トップガイドは10mm以下に規定。  
グリップ部分は、ロッドの全長の1/4を超えてはならない。
- リール** ・オープンフェイスのスピニングリール。ギア比を改造したリールも使用可。
- ライン** ・全長において同一直径でラインの全長は最低20mあること。ラインを途中で固定してはならない。
- プラグ** ・JCSFルールに則って供給される、なめらかな表面の水滴の形のプラグをJCSFも採用する。  
\* 詳細な形状は別紙参照のこと  
全長53mm (アイを除く) +/- 0.3mm  
最大直径18.5mm +/- 0.3mm  
アイの大きさ 5mm +/- 1mm  
プラグの重量 7.5g +/- 0.15g 色は白
- コート** ・幅2cmの白い線で5つの同心円が描かれた、緑色の布・ビニール製の正方形のアレンバーグ種目用ターゲット。直径(採寸は2cmの線の外側)が、それぞれ75cm、135cm、195cm、255cm、315cmの円が白線で描かれていること。  
コートの中心は、直径75cm、10mm以内の厚さの平らな黒い円盤を置く。  
5か所の投擲位置は、ターゲットの中心から90度の角度で設置される。最初と最後の投擲位置は、ターゲットの中心から正方形の手前側の挑戦を通るように設置する。それ以外の3つは、No.1とNo.5の間に均等に配置される。最も遠いNo.3の後方からの追い風となるように設置することが望ましい。それぞれの投擲位置は、幅1m、高さ10cmの白い板を用いてセッティングする。
- 投げ方** それぞれの投擲位置から2投する。第一投擲位置でのスタート時は、選手はプラグを手に持ったところからスタートする。それぞれの投擲位置からの距離は以下のとおり。
- |        |                |     |
|--------|----------------|-----|
| 第1投擲位置 | アンダーハンド振り子キャスト | 10m |
| 第2投擲位置 | ライトハンドサイドキャスト  | 12m |
| 第3投擲位置 | オーバーヘッドキャスト    | 18m |
| 第4投擲位置 | レフトハンドサイドキャスト  | 14m |
| 第5投擲位置 | どんな投げ方でもよい     | 16m |
- それぞれの位置からの距離は、ターゲットの中心から投擲板の選手側の面までの距離で、ターゲットに向かって左から右に移動するように順に設定するものとする。
- アンダーハンド振り子キャスト**  
たらしの長さは50cm以上とし自由、プラグを放出するまでの間ずっと、プラグはロッドの下を通過すること。選手の投擲姿勢は問わない。
- ライトハンドサイドキャスト**  
ロッドからプラグが放出されるまでの間、投擲方向に向かって選手の体の中心とターゲットの中心を結んだ線の右側で、プラグの軌道が選手から1m以上、離れたところを通過するようしなければならない。ロッド先端はプラグをリリースするまでは水平位置より上を通過してはならない。選手の姿勢は問わないとともに、ロッドの位置が投擲板の前でも後ろでも構わない。プラグを地面に引き摺る投げ方は認められず、その投擲のスコアはゼロとなる。
- オーバーヘッドキャスト**  
ロッドの先端は、プラグを放出するまでの間、頭上を通過し、また、ロッドは水平レベルよりも上で操作すること。たらしの長さに制限はない。選手の投擲姿勢も問わない。
- レフトハンドサイドキャスト**  
ロッドからプラグが放出されるまでの間、投擲方向に向かって選手の体の中心とターゲットの中心を結んだ線の右側で、プラグの軌道が選手から1m以上、離れたところを通過するようしなければならない。ロッド先端はプラグをリリースするまでは水平位置より上を通過してはならない。選手の姿勢は問わないとともに、ロッドの位置が投擲板の前でも後ろでも構わない。プラグを地面に引き摺る投げ方は認められず、その投擲のスコアはゼロとなる。
- 競技時間** 擲位置の間の移動を含めて5分間。
- 得点** 中心から、10、8、6、4、2点を加算。満点は100点。

# 第3種 スピニング正確度アレンバーク種目

JAPAN CASTING SPORT FEDERATION



審判は基本2名体制。それぞれが選手の投擲位置に対し、直角に位置するよう両脇に立ちます。

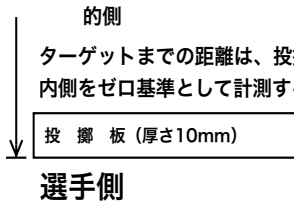


- No.1: アンダーハンド振り子投げ
- No.2: ライトハンドサイドキャスト
- No.3: オーバーヘッドキャスト
- No.4: レフトハンドサイドキャスト
- No.5: 任意のキャスト

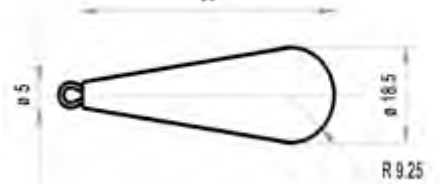
センターの的の直径：75cm  
 各同心円の大きさ：135cm  
 195cm  
 255cm  
 315cm  
 白戦の幅：2cm



No.1とNo.2、No.4とNo.5の間の距離は、5mと定めることで、複数のコートと同じコンディションで設営することができるようになる

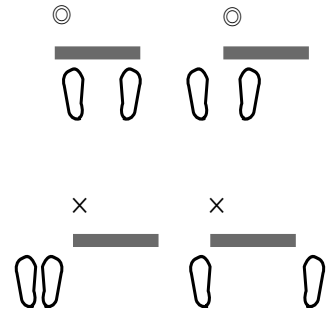
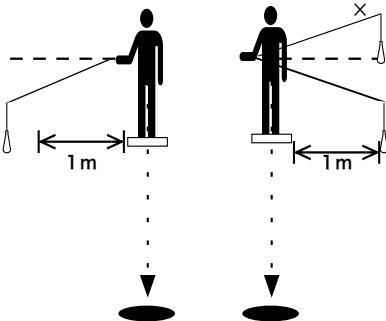


7.5gのプラグの形状

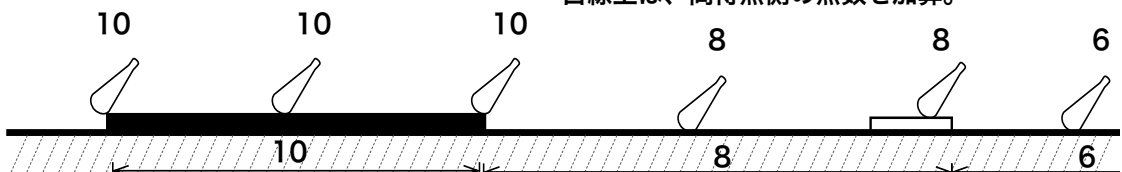


## <サイドキャスト時の注意>

左右サイドキャストでは、キャスト時にプラグが体の中心線とターゲットを結ぶ線上から1m以上離れた空間を移動させ無ければならず、また、ロッドを水平線より高い位置で移動させてはならない。



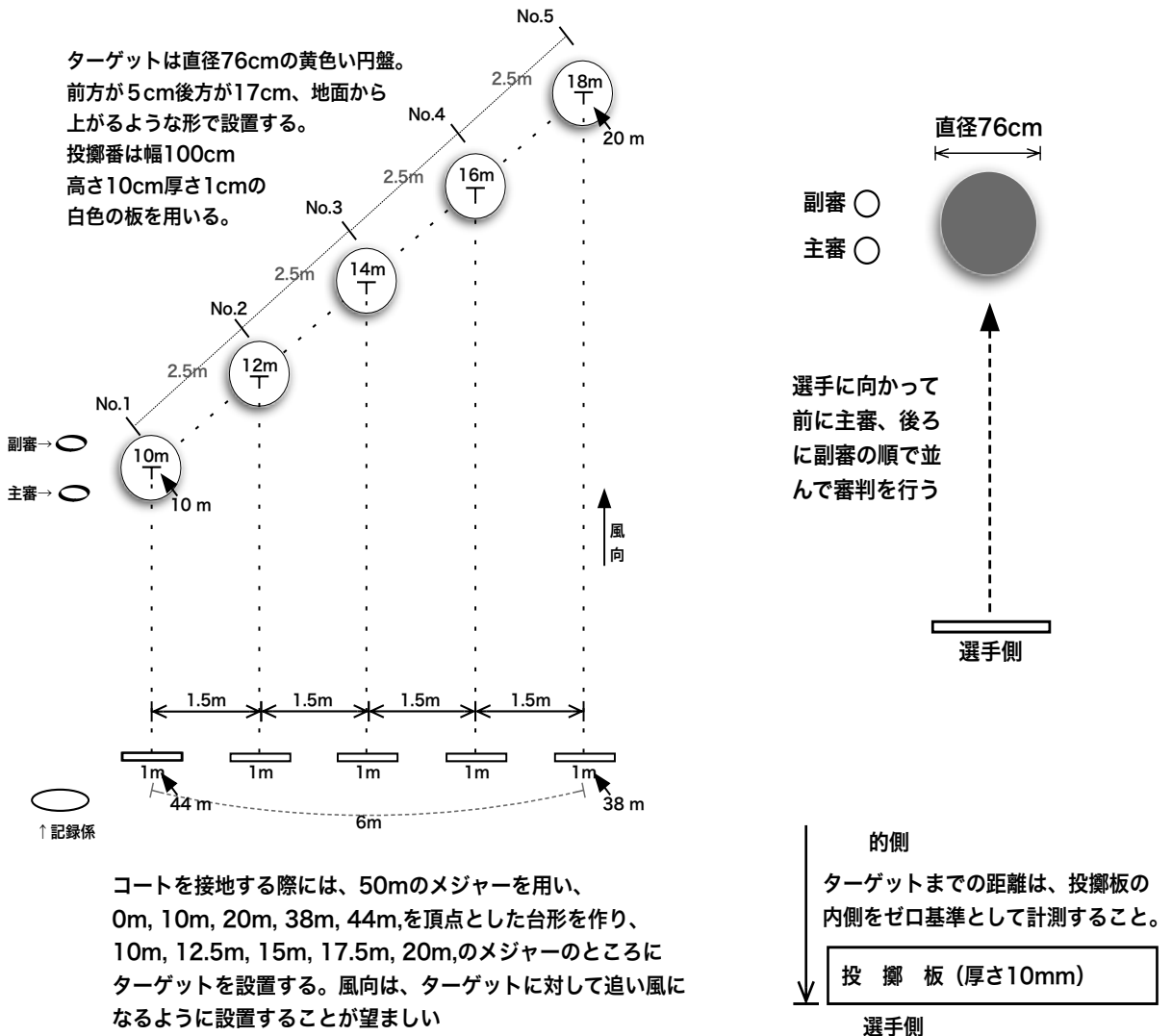
白線上は、高得点側の点数を加算。



# 第4種 スピニング正確度種目



- ロッド**
  - ・長さが137cm以上250cm以下の片手投げのロッドを使用。
  - ・最低3つのガイドとトップガイドの合計4つのガイドがついていること。
  - ・リール側のガイドは内径が50mm以下、トップガイドは10mm以下と規定。
  - ・グリップ部分は、ロッドの全長の1/4を超えてはならない。
- リール**
  - ・オープンフェイスのスピニングリール。ギア比を改造したリールも使用可。
- ライン**
  - ・全長において同一直径でラインの全長は最低20mあること。ラインを途中で固定してはならない。
- プラグ**
  - ・JCSFルールに則って供給される、なめらかな表面の水滴の形のプラグをJCSFも採用する。
- ターゲット**
  - ・傾斜している5つの直径76cm、厚さが10mm以内の黄色い円盤を用いる。
  - ・ターゲットの傾斜は前方が地上から5cm、後方が17cmとする。
- コート**
  - ・ターゲットに向かって左端の10mから右端の18mまで均等の距離の5つの投擲位置から投げる。2, 3, 4番目のターゲットは1番5番の間に等間隔におかれていること。投擲板は3種と同じ。ターゲットまでの距離は、投擲板の中央から計測し、その投擲板と投擲板の距離は1.5m間隔とする。
- 投げ方**
  - ・それぞれの5つのポジションからターゲットに向かって、2投ずつキャスト。選手はそれを2回繰り返し合計20投げる。キャスト時の姿勢は問わないが、プラグを手に持って投げるカタパルトキャストは禁止とする。
- 競技時間**
  - ・投擲位置の間の移動を含めて8分間。
- スコア**
  - ・ヒットにつき5点加算。最高得点は100点。

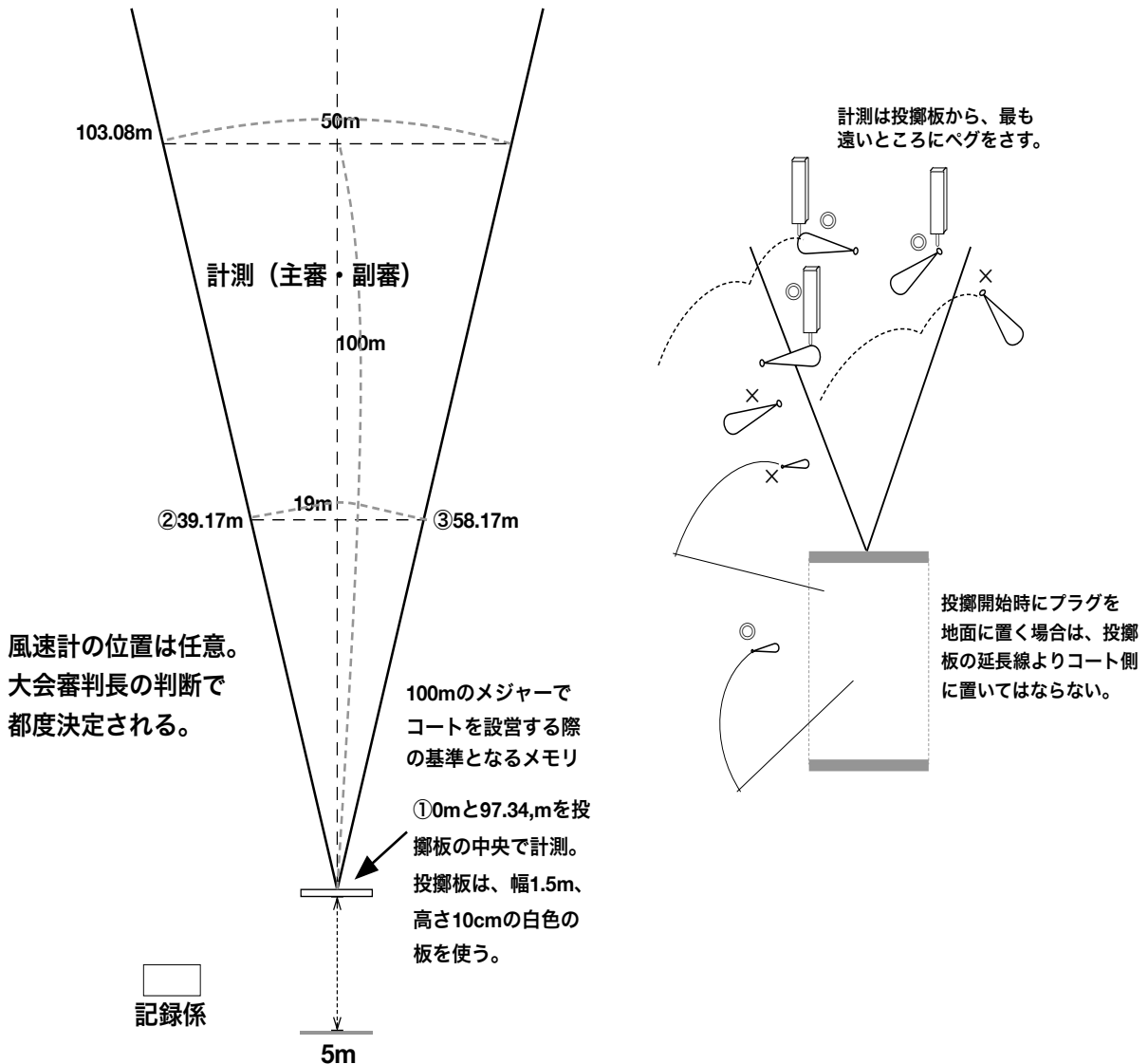


# 第5種 スピニング片手投げ距離種目



## 第5種 スピニング片手投げ距離種目

- ロッド**
  - ・長さが137cm以上250cm以下の片手投げのロッドを使用。
  - ・最低3つのガイドとトップガイドの合計4つのガイドがついていること。
  - ・リール側のガイドは内径が50mm以下、トップガイドは10mm以下と規定。
  - ・グリップ部分は、ロッドの全長の1/4を超えてはならない。
- リール**
  - ・オープンフェイスのスピニングリール。ギア比を改造したリールも使用可。
- ライン**
  - ・全長に渡って同一直径かつ直径0.18mm以上のモノフィラメント（0.18mm以下は認められない）。リーダーの直径は0.25mm以上（0.25mm以下は認められない）。リールからプラグまでのリーダーの長さは、投擲する際、リールに1巻以上、巻きつけられていること。色は、蛍光イエロー、蛍光オレンジ、蛍光グリーンなどの明るい色を用いること。透明なものは使用不可。**黒色は使用可。**
- プラグ**
  - ・ICSFルールに則って供給される、なめらかな表面の水滴の形のプラグをJCSFも採用する。
- コート**
  - ・投擲板の正面100m地点で50mの幅のV字コートを使用（詳細は図を参照）。
  - ・投擲板は長さ150cm、高さ10cm以下で、色は白。
  - ・\*各コートとも、50m地点が分かるように目印を設置すること（2014年度より）
- 投擲**
  - ・選手は3投する。3ラウンドに分けて1投ずつ投擲する。投げ方は自由。
- 時間**
  - ・審判のスタートコールの**から呼び出しを受けた後**、60秒以内に投擲を行うこと。
- スコア**
  - ・3投中最長飛距離を競う。総合種目では、1m=1.5ポイントで計算。
- 補足**
  - ・選手は5mに限り助走してもよい。

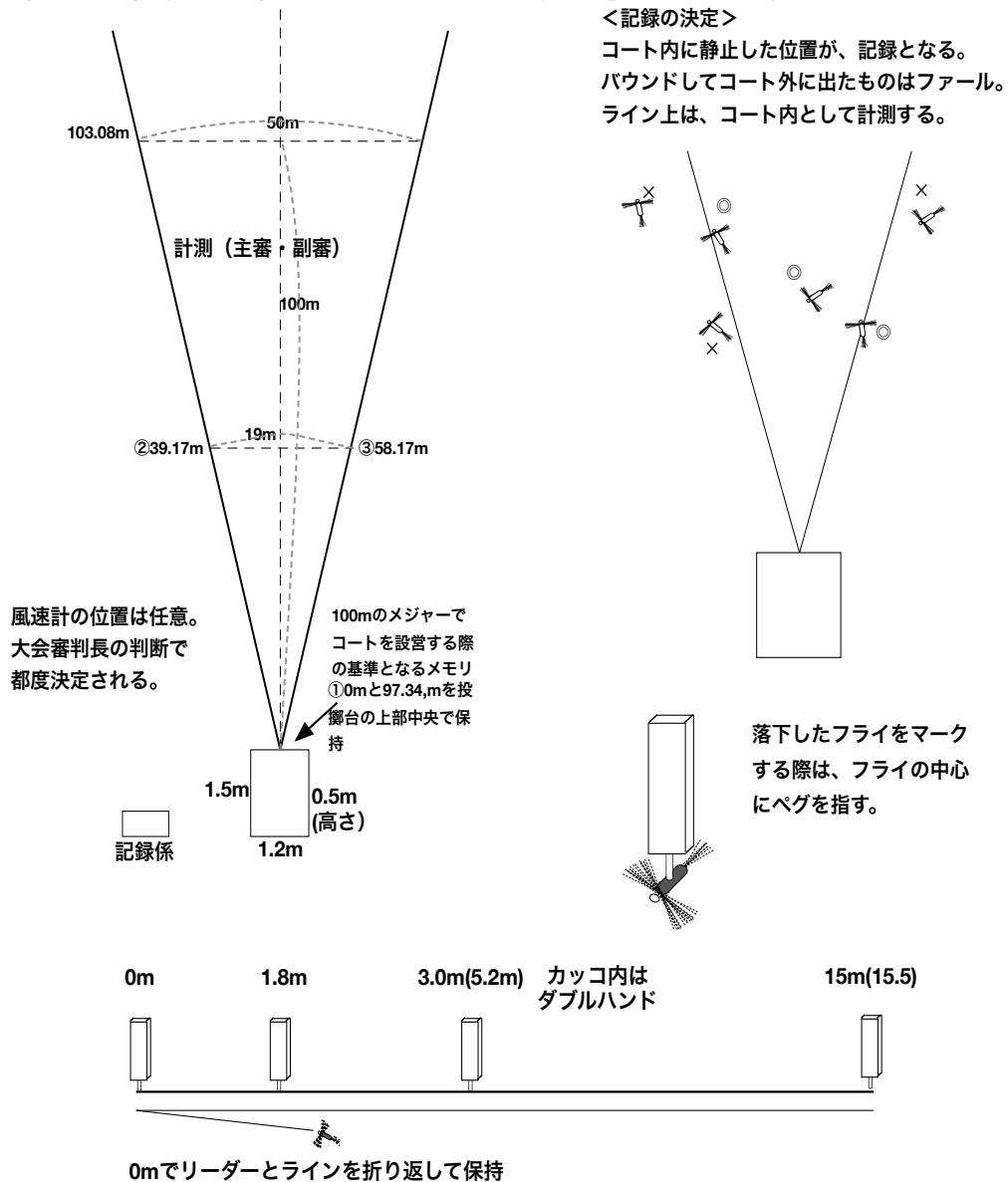




# 第6種 フライ両手投げ距離種目



- ロッド ・ 全長5.2m以下。
- リール ・ 一般的にフライリールと見なされるもの。自作も可。
  - ・ リールはロッドに固定されていなければならない、ラインはリールに結ばれていること、バックライン、フライライン、リーダーの全てを巻き取れること。
- ライン ・ ICSF公認のフライライン。重量は120g以下で、継ぎ接ぎ可。
  - ・ 長さは最低15m。金属または同等の素材は使用不可。
  - ・ JCSFルール：6種においてラインの先端及びラインの末端を修復・加工する場合は、ロッドの長さまで。修復に用いることができるのは、メインのラインと同じ素材・色のものに限る。
  - ・ \*国際ルールでは『6種のラインはカットのみ可、修理・加工は不可』となりましたが、JCSFでは国内での競技普及を促すため、旧来のルールを残します。
- リーダー ・ 1.8m以上5.2m以下
- フライ ・ 1種と同じ
- 投擲台 ・ 1種と同じ
- コート ・ 投擲台の正面50m地点で25mの幅のV字コートを使用（詳細は図を参照）
  - ・ \*各コートとも、50m,100m地点が分かるように目印を設置すること（2014年度より）
- 競技時間 ・ 6分（国際ルールも2014年度から変更予定\*2013.11現在）
- スコア ・ 2種の順位は、最長のみで競う。総合種目は最長と次長の合計を使用する。
  - ・ 1m=1点で計算する。
- 補足 ・ 前の選手が投擲している間に、次の選手はコート外にラインを引き出して置く。

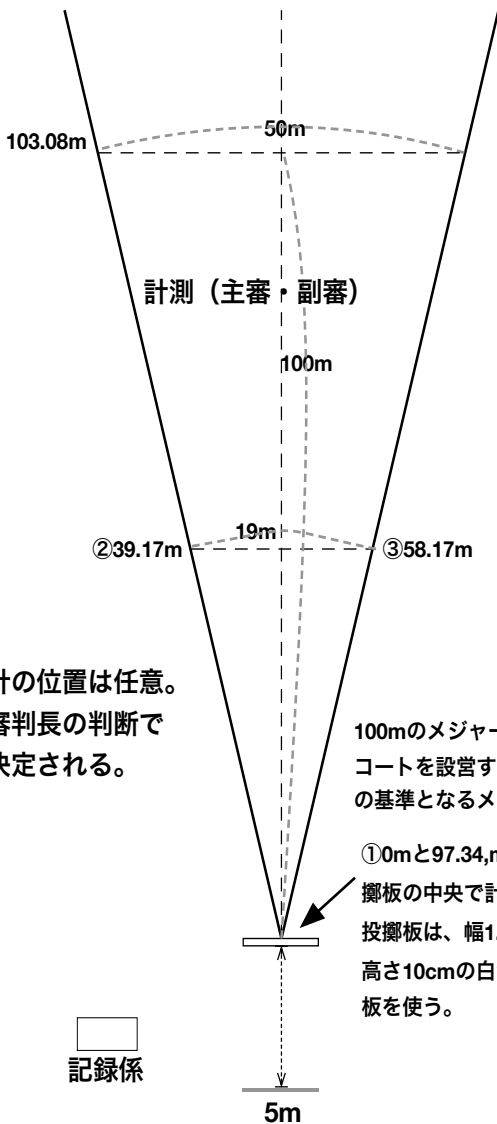


# 第7種 スピニング両手投げ距離種目



## 第7種 スピニング両手投げ距離種目

- ロッド ・ どんなものでも良い
- リール ・ オープンフェイスのスピニングリール
- ライン ・ 全長に渡って同一直径かつ直径0.25mm以上のモノフィラメント（0.25mm以下は認められない）。リーダーの直径は0.35mm以上（0.35mm以下は認められない）。リールからプラグまでのリーダーの長さは、投擲する際、リールに1巻以上、巻きつけられていること。色は、**蛍光イエロー、蛍光オレンジ、蛍光グリーンなどの明るい色を用いること。透明なものは使用不可。黒色は使用可。**
- プラグ ・ ICSSFルールに則って供給される、なめらかな表面の水滴の形のプラグをJCSFも採用する。
  - \* 詳細な形状は別紙参照のこと
  - 全長68mm（アイを除く） +/- 0.3mm
  - 最大直径22mm +/- 0.3mm
  - アイの大きさ 6mm +/- 1mm
  - プラグの重量 18g +/- 0.3g 色は白
- コート ・ 投擲板の正面100m地点で50mの幅のV字コートを使用（詳細は図を参照）。投擲板は長さ150cm、高さ10cm以下で、色は白。
  - \* 各コートとも、50m,100m地点が分かるように目印を設置すること（2014年度より）
- 投擲時間 ・ 選手は3投する。3ラウンドに分けて1投ずつ投擲する。投げ方は自由。
- スコア ・ 審判の**スタートコールのから呼び出しを受けた後**、60秒以内に投擲を行うこと。
- 補足 ・ 3投中最長飛距離を競う。総合種目では、1m=1.5ポイントで計算。
- 補足 ・ 選手は5mに限り助走してもよい。



風速計の位置は任意。  
大会審判長の判断で  
都度決定される。

100mのメジャーで  
コートを設営する際  
の基準となるメモリ

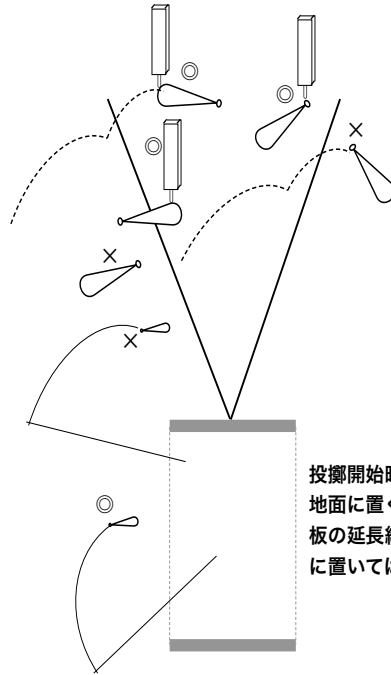
①0mと97.34mを投  
擲板の中央で計測。  
投擲板は、幅1.5m、  
高さ10cmの白色の  
板を使う。



記録係

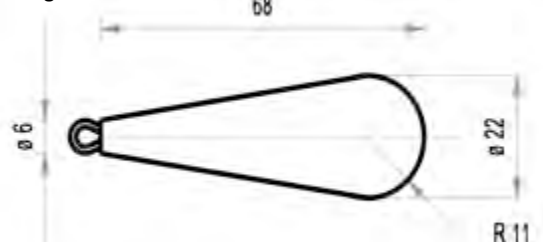
助走は5mまで Approved by

計測は投擲板から、最も  
遠いところにベグをさす。



投擲開始時にプラグを  
地面に置く場合は、投擲  
板の延長線よりコート側  
に置いてはならない。

18gのプラグの形状

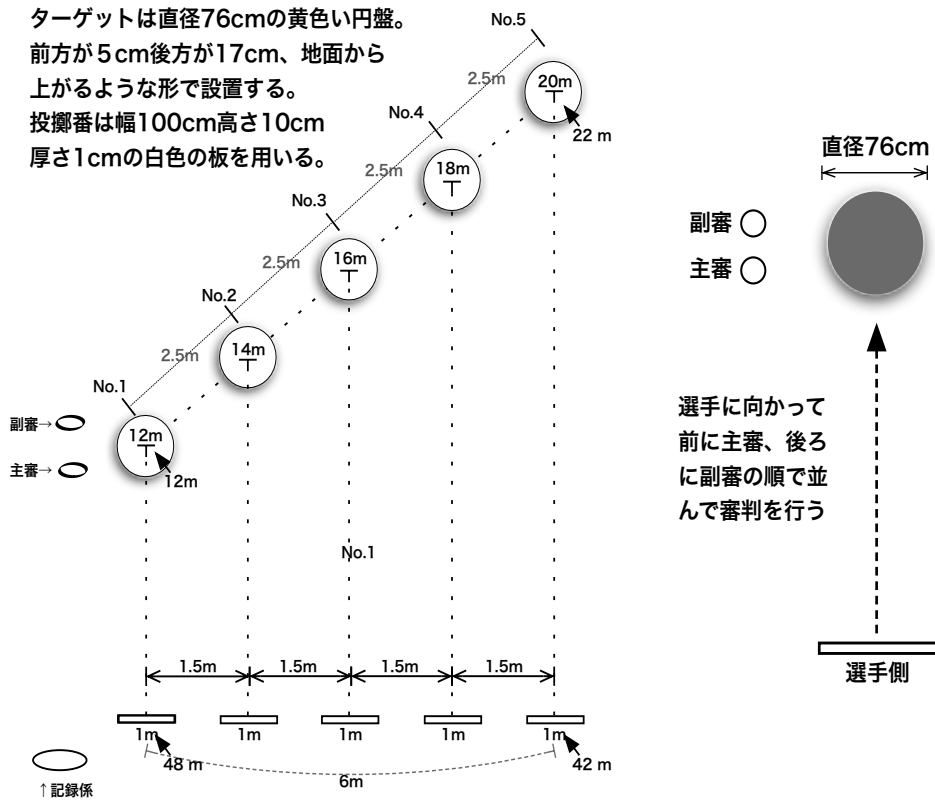


# 第8種 マルチプレイヤー正確度種目

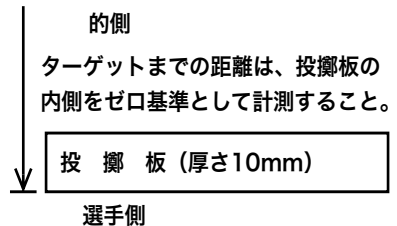


## 第8種 マルチプレイヤー正確度種目

- ロッド ・ 2.5m以下の片手投げのロッド
- リール ・ 通常のスプールのマルチプレイヤーリール
- ライン ・ 制限は無いが、22m以上で同一直径であること。
- プラグ ・ ICSFルールに則って供給される、なめらかな表面の水滴の形のプラグをJCSFも採用する。  
\* 詳細な形状は別紙参照のこと
- ターゲット ・ 傾斜している5つの直径76cm、厚さが10mm以内の黄色い円盤を用いる。  
ターゲットの傾斜は前方が地上から5cm、後方が17cmとする。
- コート ・ ターゲットに向かって左端の12mから右端の20mまで均等の距離の5つの投擲位置から投げる。2, 3, 4番目のターゲットは1番5番の間に等間隔におかれていること。投擲板は3種と同じ。ターゲットまでの距離は、投擲板の中央から計測し、その投擲板と投擲板の距離は1.5m間隔とする。
- 投げ方 ・ それぞれの5つのポジションからターゲットに向かって、2投ずつキャスト。選手はそれを2回繰り返して合計20投げる。キャスト時の姿勢は問わないが、プラグを手を持って投げるカタパルトキャストは禁止とする。
- 競技時間 ・ 8分。
- スコア ・ ヒットにつき5点加算。最高得点は100点。

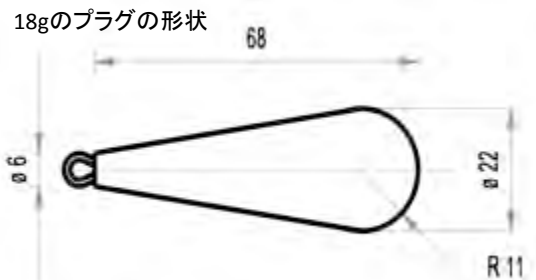
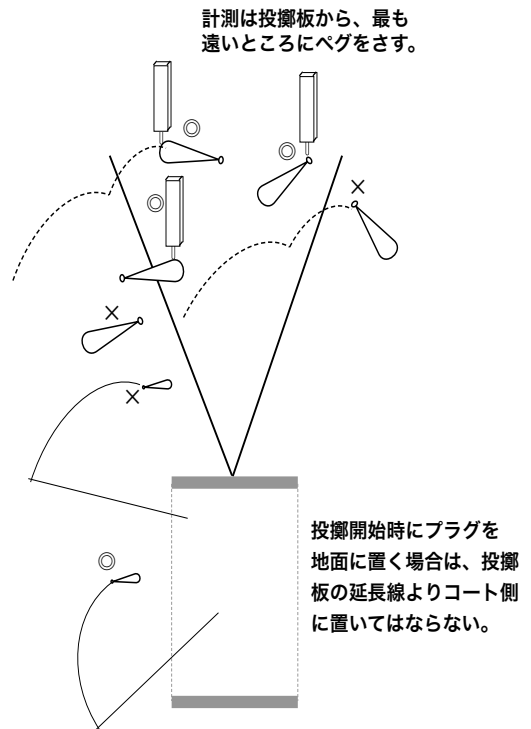
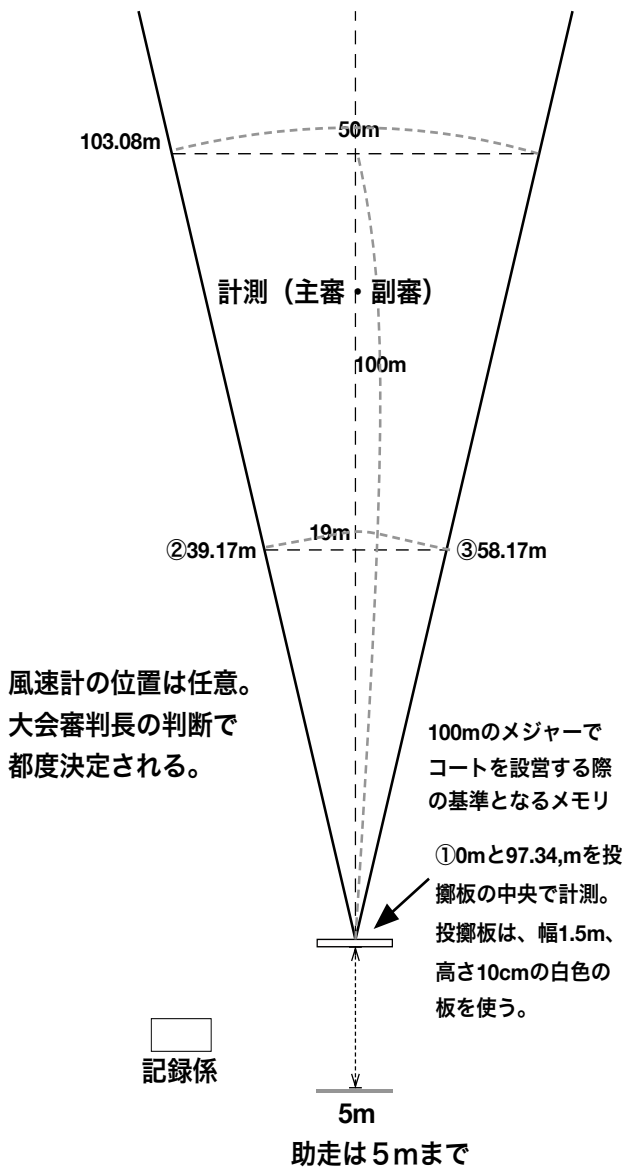


コートを接地する際には、50mのメジャーを用い、0m、12m、22m、42m、46m、を頂点とした台形を作り、12m、14.5m、17m、19.5m、22m、のメジャーのところにターゲットを設置する。4種のコートを流用する場合は、投擲板を2mずつ下げるか、4種のNo.5の右側に、20mの的を設置する。風向は、ターゲットに対して追い風になるように設置することが望ましい





- ロッド ・ どんなものでもよい
- リール ・ 通常のスプールのマルチプレイヤーリール
- ライン ・ 全長に渡って同一直径かつ直径0.25mm以上のモノフィラメント（0.25mm以下は認められない）。リーダーの直径は0.35mm以上（0.35mm以下は認められない）。  
リールからプラグまでのリーダーの長さは、投擲する際、リールに1巻以上、巻きつけられていること。色は、**蛍光イエロー、蛍光オレンジ、蛍光グリーンなどの明るい色を用いること。透明なものは使用不可。黒色は使用可。**
- プラグ ・ ICSFルールに則って供給される、なめらかな表面の水滴の形のプラグをJCSFも採用する。  
\* 詳細な形状は別紙参照のこと
- コート ・ 投擲板の正面100m地点で50mの幅のV字コートを使用（詳細は図を参照）。  
投擲板は長さ150cm、高さ10cm以下で、色は白。  
\* 各コートとも、50m、100m地点が分かるように目印を設置すること（2014年度より）
- 投擲時間 ・ 選手は3投する。3ラウンドに分けて1投ずつ投擲する。投げ方は自由。
- スコア ・ 審判のスタートコールの**から呼び出しを受けた後**、60秒以内に投擲を行うこと。
- 補足 ・ 3投中最長飛距離を競う。総合種目では、1m=1.5ポイントで計算。  
・ 選手は5mに限り助走してもよい。選手は投擲した場所から投擲後2分以内に移動しなければならない。さもなくば、スコアはゼロとなる。





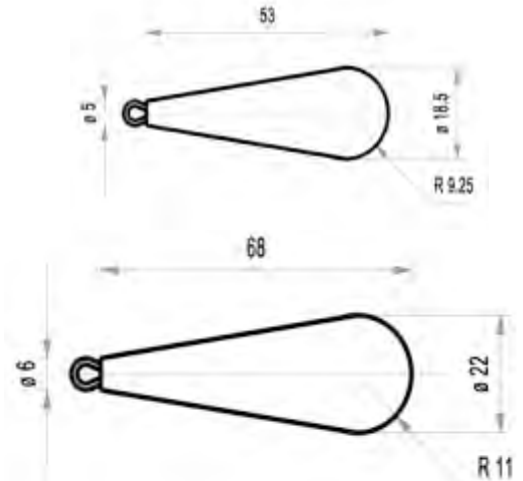
ライン及びプラグの誤差許容範囲

ラインに関する誤差許容範囲

- |    |                |                |
|----|----------------|----------------|
| 1種 | フライ正確度         | 13.5m以上重量は問わない |
| 2種 | フライ片手投げ距離      | +0.2gまでは許容     |
| 6種 | フライ片手両手距離      | +0.2gまでは許容     |
| 5種 | スピニング片手投げ距離    | 太さのマイナスは不可     |
| 7種 | スピニング両手投げ距離    | 太さのマイナスは不可     |
| 9種 | マルチプレイヤー両手投げ距離 | 太さのマイナスは不可     |

プラグに関する誤差許容範囲

- |       |           |
|-------|-----------|
| 7.5 g | +/-0.15 g |
| 18 g  | +/-0.30 g |
| アイの直径 | +/-1.0 mm |
- \*プラグには、如何なる加工もしてはならない



\*世界選手権等のICSF主催の大会では、フライラインはICSF公認のもの、プラグはICSFルールに則ったもののみ使用できる。距離種目で使うプラグは、事前に主催者によりチェックされたマーク付きのもののみ使用可とする。

タックルコントロール（タックルチェック）

国際大会においてタックルコントロールは、国際審判員と主催者側からのサポートとで行われる。検査場所はコート付近におく。プラグ種目では、1人の審判が2コート分のラインの直径を計測する。くじ引きで当選した選手は国内審判の付き添いの元、検査場所へと移動する。くじ引きの確率は、1：4とする。

【フライキャスティングに関する総則】

1 キャスティングテクニック

各種目で定められたルールに則り、片手または両手でフライロッドを用いて投擲を行う。腕の下にロッドをつけてテコの原理を使うことは認められるが、縛るなど固定してはならない。他の技術的な補助に関しても認められない。

2 0ポイントとなる場合（1種・2種・6種）無効となる投擲

- フライ距離種目では、フォールキャスト中はラインは空中にあること。（注：後方に置いたままのラインをフォールキャストせずにシュートした場合は、その飛距離は計測されない）
- シュート時にリーダーが外れた場合、スコアはゼロとなる。リーダーが絡んだ状態で1.8mより短くなっていた時は、それを解いた際に1.8m以上あった時には記録とすることができる。
- フライ種目において、フライがターゲットや地面に落ちる前に選手が投擲台から降りた（落ちた）場合。
- 競技時間終了後にフライが着地した場合。
- 正確度種目において、フライがフォールキャスト中にターゲット内の水面に触れた場合、またはフライやリーダーが地面にタッチしていると審判から警告を受けたにも関わらず、繰り返し続けた場合、その投擲は0点となり、次の的に向かう指示を出されるものとする。
- 正確度種目で、ラインに印がある、またはロッドに印をつけて計測した場合。
- 正確度種目において、フライラインの先端をロッドの長さ以上の補修をしていた場合。補修は同じ素材、色のもので行うこと。
- 正確度種目において、審判の合図の前にラインをリールから引き出していた場合。
- 正確度種目において、選手が少なくとも片足がプラットフォームの前面にかかった状態で試技を行っていなかった場合。
- 距離種目において、フライがコートの外に着地した場合。

\*それぞれの無効となる投擲は、1投とみなされ、そのヒット判定や距離のスコアはゼロとなる。

\*選手がルールに則っていない道具を使っている場合は、その種目は失格と判定される。



### 3 道具の欠損

- a) 各選手はそれぞれの種目において、適正な道具を用いて競技を行う責任を追うものとする。
- b) 道具の欠損とは、ロッドが折れたり使用不可となることや、リールが回らなくなる、スプリングが破損する等のことをいう。
- c) ルールに則って新しい道具に交換する場合は、競技時間の計測は中断され、同一ラウンド内で残りの時間を使うことができる。これらの欠損に関する対応の判断は、コート内の国際審判が行う（JCSFではコート内主審の判断によるものとする）
- d) 道具の交換や修理に選手が使える時間は10分間とする。ただし、決勝戦はこの限りではない。
- e) フライやリーダーが無くなった場合、交換のためのアシストを1名用いることができる。ラインが絡んだりフライを付け直すためのアシスタントは同一時間内で1名用いることができる。作業完了後、試技は再開するが、手元のラインは、再開以前に引き戻すことはできない。
- f) フライのハックルがとれてしまった場合、審判の指示により競技時間を中断し、選手・アシスタントは直ちにフライを交換しなければならない。

\*決勝戦では、上記の道具の交換に関する規定は、適用外とする。

\*フライが交換された後、時間の計測は再開される。ラインの引き出しは、作業終了後に行うものとする。

\*使用できるフライの数に制限はない。

（国際ルール：2種6種：フライラインが切れた場合は、新しいラインと交換できる。その場合はスコアはゼロとならない。

### 記録の決定

- a) 正確度種目では、それぞれシュートしたフライがターゲット/地面についたときに判定され、距離種目では、フライが静止した位置を計測する。
- b) 他の選手により妨害を受けた場合は、再投擲することもできる。この場合、各コートの審判からの報告を受けた審判長が判断をする。
- c) ウェットフライラウンドでフライが明らかに地面や芝の影響を受けて外したとみなされる場合、選手がその投擲をもう一度行うかどうかについては、国際審判（主審）が判断する。
- d) 選手の準備が整い、審判がスタートの合図を出したところで、フライ種目の時間の計測は始まる。制限時間の前にフライは静止又はターゲット/地面についていなければならない。

### 【プラグキャストに関する総則】

各選手はそれぞれの種目において、適正な道具を用いて競技を行う責任を追うものとする。キャストテクニック等、以下のとりきめは全てのプラグ種目に適用されるものとする。

#### 1 キャスティングテクニック

◎一般的なキャストテクニックは原則、使用可能ではあるが、カタパルトキャストは禁止。

- a) カタパルトキャストとは、競技者がプラグを持って自分の力でロッドを曲げて飛ばす投げ方のこと。
- b) 如何なるケースにおいても、投擲前にラインをリリースしてしまった場合は、投擲と見なす。

#### 2 無効となる投擲一以下のような投擲は違反とみなされ、スコアはゼロとなる。

- a) 距離種目においてプラグがまだ空中にある間に、選手が投擲板の前方に踏み出したり手をついたりした場合。また正確度種目で両足が投擲板からはみ出して試技を行った場合。
- b) 競技者が投擲したプラグの落下位置が確認される前、あるいは審判からの許諾を得る前にラインを巻き取ったりスタートボードを踏み越えたりした場合。
- c) 距離種目において、選手が審判からの呼び出し後、60秒以内に投擲したプラグが落下しなかった場合。制限時間を超過してしまった場合は、その試技は1投とカウントされるものとする。
- d) 距離種目において、5mを超える助走を行った場合。
- e) 投擲板の前のコート内、または投擲板の両側の延長線上の前面にプラグが触れた場合、投擲したものと見なされる。
- f) 競技者がスピニングリールのベールを返すことなく投擲をしたり、ベイトリールで予期せぬ形でラインを離してプラグが地面についた場合も、1投と見なされる。
- g) プラグが飛んでいる間に、スピニングリールのベールが戻ってしまった場合、あるいはベイトリールのクラッチが予期せぬ形で戻ってしまった場合も、プラグが例え着地していなかったとしても、1投と見なされる。
- h) プラグが飛行中に、ラインが切れたり、スプールからラインが解けてしまった場合。
- i) アキュラシー種目でターゲットの外に当たった場合や、ディスタンス種目でコートの外にプラグが静止した場合。
- j) ルールに規定されていない投げ方で投擲した場合

\*それぞれの違反の投げ方も1投したものとカウントされ、その飛距離や正確度のスコアは記録としてはゼロとなる。

\*ルールに則っていない用具が用いられた場合、選手はその種目において失格となる。プラグを改造したものが使われたことが発覚した場合は、全ての種目において失格となる。



### 3 道具の欠損

ラインが絡んだ場合、選手は同じ時間に1名のアシスタントを使うことができる。道具が故障した場合、一部分でも全体でも、選手は予備の道具を使って競技を行うことができる。故障の交換等の確認は、コート内の国際審判（JCSFでは主審）の判断で行われる。正確度・距離種目それぞれで、道具の交換のために選手は10分間時間を使うことができる。

決勝の場合は、上記のルールは適用外。

このような交換の場合、競技時間は中断される。残る競技時間は、交換することになったラウンドにのみ適用され、次のラウンドへの持ち越しはできない。また、ガイドがハズレた場合、ラインがスプールに巻き込んでしまった等のトラブルには、上記のような中断は適用されないものとする。

### 4 記録の決定

- a) 全てのプラグ距離種目において、飛距離の計測は投てき板の中心から着地したプラグの最遠点までを計測するものとする。3種アレンバグ種目では白い線上に着地した場合は、その線の内側と同じ点数を加点する。
- b) 飛距離の計測は、各選手の投擲ごとに行う（JCSFルールでは、運営側の判断で「各ラウンドごと」も容認することとする）
- c) 審判は計測終了後、すみやかに記録を公表するものとする。
- d) 各種目において、競技制限時間内に全ての投てきが地面またはターゲットにあたっていないなければならない。
- e) 正確度種目において、他の選手により妨害を受けた場合は、再投擲することもできる。この場合、各コートの審判からの報告を受けた審判長が判断をする。